

斑尾ジャズ2010

報告書

再開4年目を迎える「斑尾ジャズ」は8月21日(土)・22日(日)、好天に恵まれ多数の参加者を得て開催された。全国から集結した演奏家は180名にのぼり、高原はジャズ一色となった。入場無料となり、観客は2日間延べ1,400人に達した。

参加出演グループは18(ビッグバンド6、コンボ11、コーラス1)で、新たなジャンルのグループが加わり、多彩なプログラムとなった。特に長野市から参加した打楽器のみ30人編成の「北沢マロ with Rhythm Orchestra」や上越市のゴスペルクワイア「Joy Gospel」は技術的にも高く、新風を吹き込み、斑尾ジャズを盛り上げた。「北沢マロ with Rhythm Orchestra」は新設の「瀬川昌久賞」に輝いた。

「えりーと Jazz Orchestra」、「Good Café Jazz Orchestra」、「Dragon Express」、「都庁 Swing Beats」、「Sexy Dynamite Jazz Orchestra」は何れも連続出場のグループで、練習を重ねた新曲を加え、迫力あるステージを披露した。「Caliente」「伊佐津和朗+ Lazy Khan」「豊川雄也バンド」は高度の演奏力と新鮮な調べで高く評価された。

8月21日(土)に開催された「斑尾ジャズ2010交流パーティー」は一般客、地元の人々を交え170名のパーティーとなった。ペンションの奥さん達の手作り料理、11グループのステージで盛り上がった。「斑尾ジャズ記念オーケストラ」の発表は昨年から呼び物となっており、各グループから選抜された精鋭プレイヤー25名が最後のステージを飾った。新たに参加された瀬川昌久先生を記念する「瀬川昌久賞」や「斑尾ジャズ記念賞」「味の素賞」「味の素ゼネラルフーズ賞」「カルピス賞」の他参加賞等が授与された。

ステージの設営は8月20日(金)に1日かけて行われ、地元宿泊施設のオーナーやボランティアを中心とした協力委員会が協力した。音響は新たに地元の専門会社が担当し、コントロールブースを舞台脇から観客席中央に移し、観客席から音響効果をチェックできるようにした。食べ物・飲み物ブースは新たにパスタ・オリーブピクルズを導入、生ビールやワイン、ソフトドリンクコーナーも好評であった。

PR面では、地元の新聞、CATV(飯山市 i-net、妙高チャンネル、新井有線放送)の他専門誌では、「JazzLife」「Jazz World」「ジャズ批評」「Big Band」等に取り上げられた。又実行委員会の website (<http://www.madaraojazz.com>)を新装し様々な情報を発信している。本大会を盛り上げる為に、6月斑尾で、7月東京新宿にて斑尾ジャズ前夜祭を行い前者は地元演奏家、後者は東京の演奏家が大勢参加した。この参加型の企画は「斑尾方式」として確立しつつあり、厳しい経済情勢の中で新たなイベントのあり方を世に問いつつ、進化し続けるであろう。温かいご支援をいただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

以上

ふるさとのジャズ交流祭実行委員会

代表： 新山 敏 2010/11/10